

outline

アウトライン

まず最初に、原稿の投稿や執筆依頼から、編集者による査読・校閲・校正を経て、会誌に掲載されるまでのアウトラインをまとめておきます。

	執筆者の方からいただいた原稿は、投稿原稿であれ依頼原稿であれ、まず、編集委員による「査読」と「整理」が行われます。
査読	<p>「整理」は、いただいた原稿について、テキスト・図・表などが過不足なく揃っているかについて、確認するものです。「査読」は、原稿の内容が本会に相応しいものであるかどうかについて、内容の難しさ・原稿の分量・図表の適切さなども考慮して検討するものです。また同時に他の学会誌などとの二重投稿がないかについても、可能な範囲でチェックします。</p> <p>査読の結果、表現が難しかったり適切でなかったりした場合など、執筆者に書き直しを求めることもあります。また稀ですが、他会誌との二重投稿に相当する場合など、掲載をお断りすることもあります。</p> <p>原著論文についての査読は、編集部以外に適当な査読者(2名程度)を依頼して行います。</p>
校閲	会誌への掲載が決まった原稿は、編集委員の担当者によって「校閲」が行われます。
DTP	「校閲」では、一般には、タイトル(表題)やセクション(節)の付け方、図表の表現、参考文献の表記など、会誌のスタイルに合わせた修正が行われます。また、完成原稿でいただくのが原則ですが、原稿を精読すると誤字脱字など間違いが見つかります。したがって、校閲の段階で、編集委員の能力の範囲内ではありますが、できるだけ読みやすく美しい日本語になるように、誤字脱字・送り仮名・テニオハはもちろんのこと、場合によっては、論旨の明確さや文章表現なども含め、原稿のチェックや修正が行われます。テニオハなどの細かい修正を超えて、文章内容にまで踏み込んだ修正をした場合には、著者に対して校閲原稿の確認をお願いしています。
校正	校閲までは、テキストファイルベースで修正が行われますが、校閲が済んだ原稿は、DTP担当者に渡って、DTP作業に入り、レイアウトなどを施した印刷用のファイルが作成されます。
出版	印刷スタイルでレイアウトされ貼り込まれたファイルは、再度、編集委員の担当者によって「校正」が行われます。
	原稿の間違いは校閲作業ができるだけ修正していますが、それでも若干の見落としがあります。またDTP作業では、文章や図を細かくレイアウトするので、その過程で切り貼りをし忘れたり、不適切なレイアウトをしてしまう場合もあります。そこで、「校正」では、印刷用に仕上げたファイルをPDFファイルに落としたものに対し、それらの不具合を最終的にチェックします。
	原稿は、以上のステップを経て、会誌に掲載出版されます。